

受講番号 18016 学校名 高知南高等学校 氏名 岸本 絵里奈

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年生 生徒数 37名  
 科目名 総合英語 単位数(授業時数) 4時間 使用教科書名 CROWN English Series I

クラスの様子・特徴

国際関係に関する学科、国際教養科である。クラスの生徒の多くは英語が好きではあるが、基礎的な文法理解力がついていない者も多い。声に出して英語を読むことが好きな生徒たちなので、音読や発表などは非常に活発である。

問題の確定

英語ができる = 上手く話す、と考えている生徒が多いが、そうなるために読む力や文法力が不可欠であるということを考えていない。

予備調査

A 授業の観察

新しいセクションに入るときには、ほぼ全員が単語調べをしてきている。練習問題に取り組んでいるときも、机間指導中に質問をするなどして、疑問点を解消しようとする姿勢が見られる。ただ、入学当初に比べると、集中力が低下している印象である。

B 生徒による授業評価

声に出して何度も読むことは教科書の英語を読む力につながるか、という質問に「そう思う」としている生徒がかなり多くいた。音読の機会が増えるのを望む声もある。説明のテンポが速いようで、生徒の様子をもっとよく見なくてはいけない。

C 学力データ

定期試験は、平均点が毎回60点前後である。空所補充の文法問題などはできるが、全文記述による文法問題は弱い。教科書の内容理解には、しっかりできているものとそうでないものの差が感じられる。しかし、同じ間違いをしない意識は感じられる。

リサーチ・クエスチョン

文法が苦手だが、音読は好きなクラスで、文法の力をつけるにはどうすればよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

教科書を回数を多く読むことで、フレーズを意識するようになり、英文や語彙をインプットすることを促進するのではないか。

実践1

1セクションに2時間を配して、1時間目に内容理解及び文法の説明、2時間目に集中的に読む活動(特に音読)を行った。リスニングの後、パズ・リーディングをして、ペア活動や時にシャドーイングを取り入れた。その後、文戻しや単語戻し活動を各セクション毎に行った。

検証1

今までは、読みっぱなしであったが、文戻しを取り入れたことで、より集中して読むようになった。また、中には自分で大まかに文章にスラッシュを入れるなど、ある程度次に何がくるかを意識するようになったと生徒もいる。ペア活動では、相互評価をさせることで、互いにアドバイスをしたり、あるいは相手より間違いを少なくしようとする姿も見られた。

仮説2

教科書の文章を、目・耳から入れて、口から出し、それが耳に入ること、自らの体を使って学習することになる。授業において、繰り返し活動をすることで、英語の特徴やクセを身をもって感じる事が出来るのではないか。また、そのことが、英文法の習得を促進するのではないか。

実践2

音読活動において、難易度を2~3段階に分け、易しいものから挑戦していくワークシートを作った。1セクションを一枚のプリントにし、新出単語中心・重要表現中心・重要構文中心などの段階に分けたものである。何度かパズ・リーディングやコーラスリーディングを行った後、ペアでこのワークシートによる音読をさせた。

検証2

生徒にとって、音読する目的が見えてきているようだ。ただ読むだけつまり「空読み」が減ったように思われる。生徒の中には、とても大まかではあるが、文章にスラッシュを入れたり、前置詞・接続詞に印をつけたりするものも出てきた。

仮説3

教科書を何度も読んだ後で、文法事項を復習することで、定着につながるのではないか。

実践3

各課のまとめとして、文法を復習した。セクション中で簡単に説明をしたときは、「何を言ってるのか・・・」という表情の生徒もいたが、何度も読む活動をした後の説明では、複数の生徒が質問や確認をしてきた。

検証3

読むこと、構文を覚えること、文法事項を習得することには関係があると感じる生徒が増えてきたように思われる。まだまだ「習得した」という様子ではないが、質問が出る・疑問に思う点があるというところに意味があると感じる。

研究の成果

もともと声を出して読むことが好きな生徒たちであったが「空読み」状態の生徒が多かったと思われる。しかし、音読を含め「読む活動」をした後にその成果を問う活動を入れるようになって生徒自身が音読に対する意識を変えてきたようだ。1学期末から2学期中間試験ではかなり点数を下げた生徒もいたが、音読活動のあとフォローを入れるようになってからの2学期末試験では、内容理解や構文問題において中間に比べ15点以上上がったものもいる。意識して読むことの大切さが少しずつではあるが分かってきたようである。

今後の授業改善の課題

せっかくの活発な音読活動なので、ディクテーションやペア活動でだけ判断するのではなく、音読テストを定期的に行っていきたいと思う。また、教科書だけでなく少し違った英文を与えることで、どんな英文でも、ベースは教科書でやったことと同じであるということを感じてもらえる時間を、ウォームアップ程度でもいいので、設けたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-831-2811

電子メール

erina\_kishimoto@kt5.kochinet.ed.jp